九州大学男女共同参画推進室ニューズレター

SANKAKU
サンカク

2023
第24号
発行：令和5年3月

九州大学男女共同参画推進室　〒819-0395 福岡市西区元岡 744　TEL 092-802-2034　E-Mail office@danjyo.kyushu-u.ac.jp　URL https://danjyo.kyushu-u.ac.jp

本紙は「ダイバーシティ・ニュース」と「ニューズレター SANKAKU」を統合して令和3年度より創刊されました。

Contents

- 特集：巻頭インタビュー「九州大学で活躍する女性たち」
- 仕事と家庭の両立・育児体験記「ワクワク・ライフ・バランス」
- 令和4年度ワーク・ライフ・バランスセミナー　開催報告
- イベント開催報告
- 数字でみる九州大学と男女共同参画（第4回）
- 発表!! 令和4年度伊藤早苗賞
- 男女共同参画推進室　蔵書紹介
- 広報誌『ポリモルフィア』Vol.9　投稿・寄稿原稿の募集!
- 編集後記

特集　巻頭インタビュー

九州大学で活躍する女性たち

今回は九州大学で初の女性研究院長に就任された上山あゆみ氏です。

大学院人文科学研究院長
上山 あゆみ

＼略歴／

京都大学文学研究科修了、南カリフォルニア大学でPh.D.取得。京都外国語大学助教授、九州大学人文科学研究院准教授を経て平成26年同研究院教授。令和4年4月から人文科学研究院長に就任。

言葉の意味を考える言語学を

専門としている理論言語学は、言葉を生み出す仕組みを、モデルを作ってシミュレートして考えます。AIは大量のデータを使って多くの場面を想定し、近年受け答えの精度を上げていますが、意味を理解しているわけではありません。でも言葉は「意味」が大事です。理論言語学はアメリカ発祥なので、英語の視点から研究されがちですが、私は子供の頃から無意識に身についた日本語を手掛かりに、その表現の中に眠っている何かを見つけられないかという期待で研究を進めています。

意識していなかったジェンダーギャップ

学生時代も確かに先生方は男性が圧倒的に多かったです。でも所属する学会では活発に活躍されている女性研究者が何人もいらして、中には学会長になった人もいます。そんな女性の先輩方から多くを学びました。九州大学人文科学研究院に着任した時、女性教員は数人だけでしたが、私自身は割と無頓着でその少なさを意識することは無かったです。後から着任された方に指摘されて、そうかなと思ったくらいです。

腹をくくって研究院長に

研究院長就任前の4年間は副研究院長の立場で部局の運営に携わってきました。研究院長就任に当たっては多少のプレッシャーは感じましたが、腹をくくる覚悟をしました。

部局長として責任を取ることの重さを感じています。しかし、何事も自分一人で決めず、周囲の意見を聞いたうえで最終的な決断をするようにしています。また、お任せできるところはご担当の先生や得意な方にお任せし、全体としてより良い成果が得られるよう進めていければと思っています。

新たな人材養成プログラムの立ち上げ

以前から人文とデジタルとの関係をなんとかしたいと思っていたところに、研究院長就任後、文部科学省大学教育再生戦略推進費「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～Xプログラム～」の募集がありました。公募期間も短かったのですが、思いきって手を挙げることにしました。申請書の土台は作成しましたが、ご経験のある先生方、事務の方々の力を借り、申請書を良い形に仕上げることができました。

デジタル社会に移行しつつある中、理系主導のデータ駆動的な研究ではなく、人文からみたデジタルヒューマニティーズも絶対に必要です。そこでこの提案を思いつき、無事採択されました。これから大学院教育の充実に向け一つ一つ実現させていきます。

あとにつづく世代のために

国立大学の文学部は、これからの日本の人文学の将来を左右する大切な役割を担っていると思っています。年齢を重ねてきて思うことは、自分たちのあとにつづく世代のため、何とか少しでも良い形で、良いものを残していきたいということです。研究院長としてそのことを実現できるよう尽力していきたいと思います。

（インタビュー聞き手　男女共同参画推進室　上瀧、相良）

仕事と家庭の両立・育児体験記

ワクワク・ライフ・バランス

「単身赴任アカデミアケミストの育休体験記」

薬学研究院 助教 寄立 麻琴

平成31年に第一子が産まれた直後に九州大学に着任し、1年間家族3人で福岡にて生活した後、令和2年4月より妻の職場復帰に伴い単身赴任が始まりました。時が経ち令和4年に第二子が産まれたタイミングで、7月中旬から8月中旬にかけて、夏季特別休暇を含む合計38日間、育児休業と年次休暇を取りお休みを頂きました。

父親が育休を取り、育児に専念できる時間を作ることは、我々夫婦にはあらゆる観点で必要不可欠なことでした。まず、日々活発になる長女と生まれたての次女を連れてプール・公園・科学館などの遊び場に家族で出かけることができました。日頃遠くに住んでいる父親と目一杯遊ぶのは大変楽しいようで、離れ離れである寂しさを解消できました。また、子供が二人になると寝かしつけの難易度が格段に上がりました。夫婦で試行錯誤した結果、次女は風呂上がりに自然に寝られる体質になり、長女は寝室では騒がなくなり、育休後も妻一人で寝かしつけられるようになりました。

育休はわずか1ヶ月強でしたが、子供と妻と真剣に向き合う事ができる大変価値のある時間を過ごせました。育休取得を快諾頂いた上司や仕事の補助をしてくれた同僚、研究を続けてくれた学生に感謝申し上げます。そのほか、語りきれないことはChem-Station記事に詳細に綴っていますので是非ご覧ください。↓

https://www.chem-station.com/blog/2023/01/childcareleave.html

令和4年度ワーク・ライフ・バランスセミナー 開催報告

令和4年12月7日（水）、ワーク・ライフ・バランスセミナー「親の介護、僕らはどうする？ ケア役割に向き合い、分かち合うためのオトコの作法」を開催しました。今回は大阪公立大学大学院文学研究科の平山亮准教授に講師をお願いして、男性が介護者となった場合にみられる特有の傾向についてご講演いただきました。なお、当日はQ-wea（九州・沖縄女性研究者支援ネットワーク）参加機関を含め、オンラインで30名の参加がありました。

以下、ご講演の一部を紹介いたします。

要介護高齢者の世話は、2つの労働から成り立っている。一つは日常生活動作に不自由がある高齢者を直接手伝う「介護」、もう一つはそれなしに介護を続けることができない「基礎」と呼ばれるものである。後者は、例えば食事の支度や洗濯など家事全般で生活していく上で必要な部分を占める。夫が「介護」を行う一方、妻がこの「基礎」部分の多くを担っているにも関わらず、それは介護の担い手として表には出てこない。夫婦で双方の親を介護する場合、この「介護」と「基礎」の役割について認識することが重要になる。

親の介護ときょうだいの関係では、娘は「できなくなった」ことに、息子は「未だできること」に目がいくなど、親の老いに対する見方が異なる。親の老いを受け入れることができず、結果的に虐待になってしまうことは特殊なことではない。

さらに、親の介護は誰にとっても初めての経験である。家事が得意なこととケアに向いているかは別の話であり、男性だから介護が難しいという考えは当てはまらない。男性はケアができないと思われ、周囲から困っていることはないかと注意の目を向けられる一方、女性はケアができる性だという思い込みによって助けを求めにくく孤立しやすい面もある。私たちは介護制度に関する知識を得ることにプラスして、自分たちの「あるある」を知る・振り返ることが必要なのではないか。

超高齢社会を迎えたいま、介護は決して遠い将来の話ではなく、誰もが避けて通ることのできない問題です。今回のご講演によって、参加者がこれまでの介護に関する認識をあらためるとともに、できることから介護に参加するということの重要性を認識する良いきっかけとなりました。

イベント開催報告１

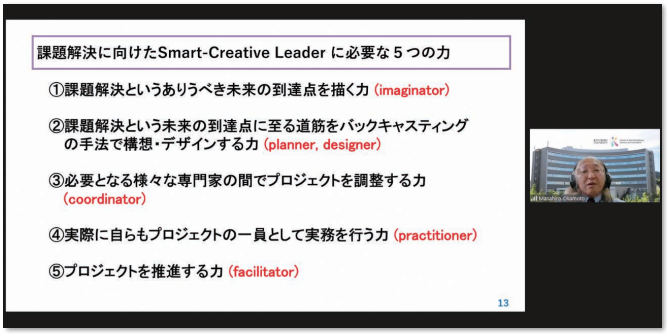
R4年度女性職員エンカレッジメントセミナーを開催しました

令和4年10月17日（月）、女性職員エンカレッジメントセミナー「仕事に活かす 周囲を巻き込む力」をオンラインで開催しました。第2回目となる今回は、九州大学総長特別顧問を務める岡本正宏氏と株式会社キャリエーラ代表取締役の藤井佐和子氏のお二人を話題提供者に迎え、仕事をスムーズに進めるためのヒントやアドバイスを伺いました。なお、当日は60名を超える方々に参加いただきました。

まず、岡本氏から「仕事に活かすデザイン思考・バックキャスト思考」と題したお話がありました。岡本氏は、様々な要因が多角的に絡み合う問題を解決するためには、従来型の硬直的なシステムではなく、個々の専門性を越えて俯瞰的に組織全体を見渡すことが必要であると述べられました。そして、こうした「ファシリテーター」に求められる力として、デザイン思考やバックキャスティング思考を挙げられました。

続いて、藤井氏から「周囲を巻き込む仕事術―ひとりで抱え込まないために」と題したお話がありました。藤井氏は、周囲を巻き込むためのステップとして①関わる ②相手を理解する ③伝える の3つを挙げ、自分は何を解決したいのか、相手にどうしてほしいのか、その理由を明確にしながら効果的なコミュニケーションを心掛けることが大切であると説明されました。

最後に、男女共同参画推進室副室長の玉田副学長から、参加者へのエールが送られ終了しました。



イベント開催報告２

「Open Cafe 2022～九大女子卒業生に聞く！学生生活やキャリアについて」を開催しました

令和4年11月5日（土）、本学の「アカデミックフェスティバル2022」の一環として「Open Cafe 2022～九大女子卒業生に聞く！学生生活やキャリアについて」を初めてオンラインと対面のハイブリッド形式にて開催しました。会場での対面開催は、3年ぶりとなります。

今年度は、旭化成ファーマで博士研究員としてご活躍の佐藤ひかりさん（システム生命科学府博士課程修了）と、キャスター・気象予報士としてご活躍の佐々木理恵さん（芸術工学府修士課程修了）のお二人にご講演いただきました。

佐藤さんは前臨床・臨床試験の間の製薬の分析の仕事をされていますが、九大での充実した学生生活の思い出や、現在の仕事とやりがいについて語っていただきました。佐々木さんはNHKで九州・沖縄の朝の顔としてご活躍中ですが、報道の仕事だけでなく、普段から生きる姿勢として大事にしていることについて語っていただきました。

パネルディスカッションでは、参加者から学生時代の過ごし方やパートナーとの家事の分担など様々な質問がありました。この会を通して、参加者が女性のキャリアや将来の進路について考える良いきっかけとなりました。

イベント開催報告３

霜月ランチタイム交流会を開催しました

令和4年11月28日（月）、霜月ランチタイム交流会を開催しました。今回は本学人文科学研究院の小黒康正教授に講師をお願いし、「現代ドイツのフットワーク 女性躍進に伴う社会意識の変化と背景」と題したお話を伺いました。当日はオンラインで23名の方にご参加いただきました。

小黒教授は、ドイツにおける女性躍進の背景として、現代ドイツのフットワークの軽さを指摘されました。ドイツ社会を特徴づけるものの一つに「社会参加する市民（engagierte Bürger）」の存在がありますが、これは市民が自由意志に基づき、環境やまちづくりなどの社会貢献活動に参画することをいいます。小黒教授は、こうした市民が草分け的存在となって、公共交通の再生や環境保全に携わることで地方都市が活力を保っていること、またそのような自然環境や生活環境、ドイツ社会全体のフットワークの軽さが、女性の社会進出に一役買っているのではないかと説明されました。

最後に、ご講演後の質疑応答の時間では、参加者から活発な質問が寄せられました。

数字でみる九州大学と男女共同参画 第4回

3.1 ↓ 18.7

この数字は、本学一般事務職員の課長職以上に占める女性比率の推移です。2012年にはわずか3.1%だった課長職以上の女性比率は、この10年で18.7%へと大きく増加しました。一般企業を対象とした調査では管理職女性比率が依然として一割以下[1]である事を鑑みると飛躍的な伸びであるといえます。しかしながら、本学の掲げる事務系女性管理職25%の目標値[2]にはまだ届かないのが現状です。

DEI（ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン）の推進は社会においても本学においても喫緊の課題であり、女性の上位職登用は今後も積極的に進められると考えられます。女性が上位職へチャレンジし、活躍できる組織であるために、制度の充実だけでなく、意識の醸成、働き方改革、身近なロールモデルの輩出など、様々な取り組みを進めていく事が求められます。

（男女共同参画推進室　加藤悠紀）

1 帝国データバンク調べ　2021年　　2 国立大学法人九州大学女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

発表!! 令和4年度伊藤早苗賞

九州大学は、女性研究者育成を目的に、優れた研究成果を挙げた若手女性研究者及び女子大学院生を表彰する制度を2018年に開始しました。今年度は、以下のとおり受賞者が決定しました。

若手女性研究者部門　★＝受賞コメントおよび研究内容のURL

最優秀賞　上田　瑛美（医学研究院・助教）
★ https://youtu.be/ZGgEDAbL9Yk

優 秀 賞　脇坂真彩子（留学生センター・准教授）
★ https://youtu.be/1h54QRFLBOM

顧　　玉杰（システム情報科学研究院・助教）
★ https://youtu.be/_9ccSGsduaw

女子大学院生部門　★＝受賞コメントおよび研究内容のURL

最優秀賞　伊藤　美羽（工学府・修士2年）
★ https://youtu.be/RM35c-RADSM

優 秀 賞　安部　知純（生物資源環境科学府・博士2年）
★ https://youtu.be/TrNf_lN--7Q

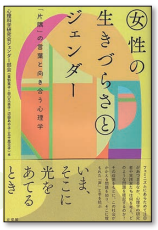
三苫　春香（経済学府・博士2年）
★ https://youtu.be/vgZtsL0E6q0

令和4年10月18日（火）には椎木講堂特別応接室にて表彰式が行われ、受賞者には石橋総長から表彰状ならびに盾が、また「九州大学伊藤早苗記念基金」から副賞の研究費が授与されました。その後、石橋総長や伊藤早苗先生のご夫君である伊藤公孝先生との懇談が行われました。

男女共同参画推進室 蔵書紹介

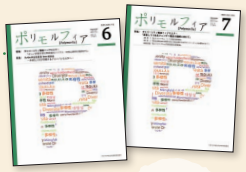
『女性の生きづらさとジェンダー』

本書は女性の生活実態や意識について、具体的な問題や事例を対象に、心理学の研究者や実践家が社会的・歴史的な視点から論じています。読者が女性の生きづらさを自分のこととして捉え、社会に立ち向かう勇気と連帯を喚起することを願って記されているので、ぜひ男女共同参画推進室にお立ち寄りの際はご覧ください。無料で貸し出しも受け付けています。



- 発売日：2021年11月6日
- 編者：心理科学研究会ジェンダー部会
- 編集委員：青野 篤子、田口 久美子、沼田 あや子、五十嵐 元子
- 出版社：有斐閣
- 発行形態：単行本
- ページ数：320p
- ISBN-13：978-4641174702

広報誌『ポリモルフィア』Vol.9 投稿・寄稿原稿の募集!



男女共同参画推進室が年に1回発行している学術的広報誌『ポリモルフィア』では、投稿・寄稿原稿を募集しています。内容は、ダイバーシティ、男女共同参画、女性のキャリア形成等に関するものとします。皆様からの原稿をお待ちしています。

＊募集している記事＊

①論文　②研究ノート　③資料（史料）（データ分析、翻訳等を含む）
④書評　⑤研究動向　⑥活動報告　⑦エッセイ
⑧その他、編集委員会が認めたもの

お問い合わせ　ポリモルフィア編集委員会事務局
polymorfia@danjyo.kyushu-u.ac.jp

＊ポリモルフィアは、ギリシャ語で「多様性」を意味します。
＊バックナンバーは、男女共同参画推進室のHPからご覧頂けます。

編集後記

この一年ほど、人工知能による画像の生成や文章の作成などが大きな話題になっています。講義を担当する教員としては、レポートの出題をどうするか、などの懸念もあります。しかし、この技術を活用して働き方改革が進み、ワークライフバランスの実現につながれば、との期待もあります。（企画広報環境整備部門　企画・広報WG　南里豪志）

＼読者の声／をお聞かせください。アンケートにご協力をお願いいたします。

編　集
九州大学男女共同参画推進室　企画広報環境整備部門　企画・広報WG
伊藤　裕之（芸術工学研究院　教授）　南里　豪志（情報基盤研究開発センター　准教授）
廣瀬　　慧（マス・フォア・インダストリ研究所　教授）　相良　祥子（男女共同参画推進室　職域限定専門職員）

［ロゴデザイン］藤　紀里子（芸術工学研究院 助教）

制作／株式会社ミドリ印刷